

学会報告

The 3rd Asian Symposium for Building Future of Plasma (3rd ASBFP) and International Young Electrostatic Scholar Symposium for Convergence Technology 2026 (I-YES 2026)

岩手大学理工学部 高橋 克幸

1. 概要

2026年6月29日から7月1日にかけて、韓国・益山市の Wonkwang University (圓光大学校) において、日本・韓国・台湾の静電気、高電圧、放電およびプラズマ分野の若手研究者による国際会議「The 3rd Asian Symposium for Building Future of Plasma (3rd ASBFP)」ならびに、日本・韓国の学生を中心としたワークショップ「International Young Electrostatic Scholar Symposium for Convergence Technology 2026 (I-YES 2026)」が開催された。

本国際会議の運営には、韓国側から韓国機械研究院の H. Kang 博士、圓光大学校の T.H. Kim 准教授および釜山大学の O.L. Li 教授が、台湾側から国立台湾大学の Y.C. Cheng 教授が携わった。日本側からは、東京科学大学の竹内准教授、九州大学の田中准教授ならびに筆者が運営に携わった。若手研究者による自主的な運営のもと、活発かつ忌憚のない情報交換と議論を通じて、共同研究や研究プロジェクトの申請へと発展させるとともに、研究活動と国際交流を楽しみながら活性化することを目的として開催された。

今回は、研究者および博士課程学生が ASBFP に、学部生および修士課程学生が I-YES に参加した。参加者は、韓国 41 名、台湾 1 名、日本 17 名の計 59 名であった。

2. 当日の様子

益山市は韓国南西部に位置し、ソウル駅から KTX を利用して約 1 時間 30 分で訪れることができる。ソウルや釜山などの大都市とは異なり、街は落ち着いた雰囲気、滞在しやすい場所であった。

初日の 6 月 29 日には、ウェルカムパーティーが開催された。学生間の交流を促進するため、地元の居酒屋形式のレストランにおいて、ビールやマッコリなどを楽しみながら参加者間の親睦を深めた。

講演会は、6 月 30 日と 7 月 1 日の 2 日間にわたって開催された。今回は口頭発表のみが行われ、ASBFP および I-YES において、それぞれ 25 件、計 50 件の発表があった。

発表時間はいずれも 15 分に設定された。発表された研究分野は多岐にわたり、熱プラズマ、プラズマの電池への応用、有機化合物の分解、気液界面における相互作用の解析とその応用、気流制御、液滴の帯電量評価、半導体スイッチを用いた遮断器などに関する研究が報告された。特に熱プラズマに関する発表が多く、静電気学会の大会では目にする機会の少ない幅広い研究テーマに触れることができた。

I-YES では、研究発表だけでなく、各セッションの座長も学生が担当した。座長は 2 名 1 組で進行を担当し、慣れないながらも英語による発表者の紹介、セッションの進行および質疑応答に取り組んでいた。学部生および修士課程学生にとって、国際会議の運営を経験する貴重な機会になったと感じた。また、ASBFP に参加した博士課程学生および I-YES の発表者を対象として、学生による投票が行われ、それぞれ 2 名の優秀発表者が選出された。

昼食には韓国式の弁当が提供され、バンケットではサムギョプサルが振る舞われた。エクスカージョンでは、黄海沿岸に広がる韓国最大規模の干拓・地域開発地域であるセマングムを訪問した。ここでは、防潮堤によって陸地と接続された島内において、電気自動車を利用したアクティビティなどを通じて周囲の景観を楽しみ、参加者間の親睦を深めた。

3. まとめ

本会議は、若手研究者および学生間の交流を深めるとともに、専門分野や国籍を越えた研究ネットワークの形成に寄与することを目的としており、国際的な研究交流をさらに発展させるためにも、本会議を継続して開催することが重要である。次回は、九州大学の田中准教授を中心として、2027 年の同時期に宮崎県で開催される予定である。本学会の若手研究者および学生の積極的な参加を期待したい。



図 1 シンポジウムの様子

〒020-8551 岩手県盛岡市上田 4-3-5 岩手大学理工学部

Tel: 019-621-6460

E-mail ktaka@iwate-u.ac.jp

URL <https://pplab.eec.iwate-u.ac.jp/>